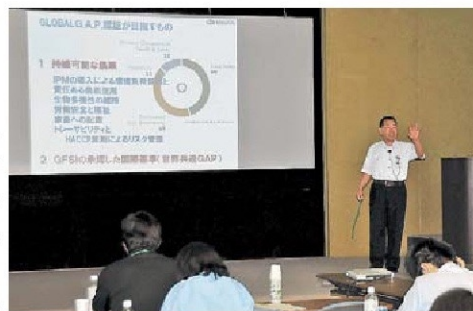


農産物の国際的安全認証 GAPの取得目指す



グローバルGAPの意義などを解説する田上隆一理事長＝岐阜市宇佐南、県JA会館

県などが研修会

農産物の安全性の国際的な認証制度「グローバルGAP(ギャップ)」の導入支援研修

会が6日、岐阜市宇佐南の県JA会館で開か

れた。県内の農業関係者がGAPの意義や認証取得のポイントなどを学んだ。

GAPは農業生産工程管理による持続的な改善活動。県内産の農産物の輸出促進に取り

組む中、事実上の国際標準となっている「グローバルGAP」の認証取得を県内農業者に促そうと、県とJA岐阜中央会が研修会を開いた。

日本生産者GAP協会の田上隆一理事長が欧州の先進事例を紹介しながらGAPの現状などを解説。「GAP認証は差別化戦略ではなく最低限の基準。国内農業が国際規格でなければ国内農業は守れない」と述べ、認証を取得し持続可能な農業を目指す必要性を語った。